

令和7年度 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画

呉市立音戸中学校
(音戸中学校区)

全国平均値との差

	国語	数学
呉市教育振興基本計画〈指標〉	+5.0	+5.0
令和8年度	-	-
令和7年度	-3.3	-6.3
令和6年度	-2.0	-5.5
令和5年度	-4.8	-4.0
令和4年度	-3.0	-4.4

全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組

◎…各学校 ◇…中学校区

<p>国語</p> <p>●---● 全国平均 ■---■ 県平均 ×---× 本校</p> <p>本校 <u>51%</u> 全国 <u>54.3%</u> 県 <u>55%</u></p> <p>言葉の特徴や使い方</p> <p>読むこと</p> <p>話すこと・聞くこと</p> <p>書くこと</p>	<p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。(設問2四)【話すこと・聞くこと】(平均正答率22.2%) ◎複数の文章を比較し、文章の構成や展開について根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。(設問3四)【読むこと】(平均正答率16.7%) ◎読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。(設問4二)【書くこと】(平均正答率16.7%) ◇文章を読む目的を明確にして複数の資料を結び付け、必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことに課題がある。 <p>改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎資料や機器を用いる際には、自分が伝えたいことの何を資料に盛り込み、どのような工夫をすれば効果的に伝えられるかを考えさせる学習活動を設定する。 ◎自分の考えを書かせる前に、作者の他の作品も提示し、展開や構成について比較の観点を明示した上で、共通点や相違点を見つけさせる。 ◎文章を推敲する際は、読み手の立場に立つことが重要だと理解させ、文や段落の長さ、役割、順序が適切であるか相互に助言し合う学習活動を設定する。 ◇丸で囲む、線でつなぐなど複数の資料を結び付けながら読む活動や自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いた文章を互いに読み合い、見直す活動を設定する。 <p>検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎全国学力(設問2四)(設問3四)(設問4二)の類似問題(第2学年、2月)の正答率 目標50% → 結果30% ◇2学期のテストの平均正答率(全学年)が40%未満の生徒の割合 目標0% → 結果21%
<p>数学</p> <p>●---● 全国平均 ■---■ 県平均 ×---× 本校</p> <p>本校 <u>42%</u> 全国 <u>47%</u> 県 <u>48.3%</u></p> <p>数と式</p> <p>データの活用</p> <p>図形</p> <p>関数</p>	<p>重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎目的に応じて、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取ったり、それらを基に判断の理由を説明したりすることに課題がある。特に、統計的な知識の理解が不十分であり、それを活用して事象を考察する力が不足している。【Dデータの活用】(全国平均との差-12.3) ◇数学的な見方・考え方を働かせ、必要な情報を読み取り、それを活用して筋道を立てて考察することに課題がある。 <p>改善の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎前期：身近なデータを収集・整理し、度数分布表やヒストグラム、相対度数などで表現する。データの特徴(最頻値、中央値、平均値など)を読み取り、日常の事象と関連付けて考察する。中・後期：複数のデータを比較し、その特徴や傾向を読み取る活動を設定する。判断の理由を具体的な数値や特徴をもとに数学的に説明する活動を重視する。特に確率では、様々な事象の起こりやすさを確率をもとに説明する演習を増やす。(中2・中1) ◇授業の中で基礎基本の知識を習得する時間を確保する。また、算数・数学で学んだことを生活や学習で活用できるように授業改善を行う。 <p>検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎資料の活用に関する学年末試験で類似問題【相対度数】(第1学年2月)の正答率 目標70% → 結果49% ◎確率に関する学年末試験で類似問題【確率を用いて理由を説明】(第2学年2月)の正答率 目標60% → 結果44% ◇2学期のテストの平均正答率(全学年)が40%未満の生徒の割合 目標0% → 結果33%

【来年度に向けて】

相対度数は合計人数が異なる2つのクラスの得点分布を比較させるなど、「度数だけでは比べられない」という不便さを実感させる場面を設定して授業を行った。小学校での既習事項である「割合」の振り返りを丁寧に行い相対度数の概念と結び付けて理解を図る。確率は「確率を出す」ことはできても、「それを根拠に説明する」ことができない。ペア活動を取り入れて説明させる学習活動を取り入れる。複数の資料や文章から読み取ったことを基に自分の考えを書く活動を設定するだけでなく、文章を推敲したり表現の工夫について書かせたりする活動を取り入れることで、書き手、読み手といった様々な立場から文章を捉える力の育成を図る。